

2020年度 第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2020年6月3日（水）13時30分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：14名 オブザーバー：15名 計29名（事務局：5名）

○協 議 （1）2019年度事業報告（案）・収支決算（案）について
（監査報告）
（2）秋田市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する意見について
（3）その他

○報 告 （1）秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業の進捗
①あきた芸術劇場および秋田市文化創造館の進捗について
②秋田市中通CCRC拠点整備事業について
（2）秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗
①アートなまち歩きの発行について

○そ の 他 秋田駅西口のビル建設計画について情報提供

（発言内容）

【三浦会長の開会挨拶】

- ・ 新型コロナウイルス感染症について、本県の緊急事態宣言は解除されているが、街の活気を取り戻すにはほど遠い状況であり、中心市街地に出店している事業者にも大変大きな影響が及んでいる。5月に開催を予定していた「これが秋田だ！食と芸能大祭典」、8月の秋田竿燈まつりなど、例年、国内外からの観光客などで大いに賑わうイベントも中止となり、観光産業をはじめ甚大な経済損失が見込まれる。
- ・ 第2期計画の中核事業である「あきた芸術劇場」や「秋田市文化創造館」の整備は着実に進んでいる。民間サイドにおいても、4月にABS秋田放送がJR東日本秋田支社跡地に移転し放送を開始したほか、JRの「ノーザンステーションゲート秋田」でも、スポーツ施設や学生マンションがオープンしている。また、北都銀行を中心とする中通地区CCRC拠点整備事業が、今年秋の完成に向け順調に事業が進んでいると聞いている。
- ・ これらの様々な取組により、秋田駅前の地価は昨年に引き続き上昇するなど、効果が数値として表れてきていると思われる。
- ・ その他、広小路歩行者天国のトライアル実施に向け調査を進めている。

- ・ 本日は、2019年度の事業報告・収支決算と、中活計画の進捗状況を国に報告するにあたり、当協議会からの意見を求められているので、それぞれご審議いただきたい。また、忌憚のないご意見をいただきたい。

【協 議】

(1) 2019年度事業報告(案)・収支決算(案)について

事務局より、協議会および芸術文化ゾーンの活用研究会の開催内容や、アートを活かしたまち歩きイベント「マチアルキ」の実施結果など、2019年度の事業報告(案)を説明した後、収支決算(案)について収支状況を説明した。

佐々木監事からの監査報告後、原案通り承認された。

(2) 秋田市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する意見について

秋田市都市整備部の横山都市総務課長が以下のとおり説明した。

- ・ 内閣総理大臣の認定を受けた中心市街地活性化基本計画について、中心市街地の活性化に関する法律および閣議決定された基本的な方針により、計画期間中毎年フォローアップ(自己評価)を行い、内閣総理大臣へ報告するとともに、ホームページ等により公表することが求められている。
- ・ フォローアップについて、内閣府が作成した実施マニュアルに従い、報告書を作成する必要があるが、報告書には中心市街地活性化協議会の意見を記載することが求められている。
- ・ 本日は、令和元年度における取組の評価として、目標指標の最新値を報告するとともに、報告書に記載する中心市街地活性化協議会のご意見を伺いたく協議するもの。
- ・ 「Ⅰ. 中心市街地全体に係る評価の1, 令和元年度終了時点の中心市街地の概況」について、令和元年度は計画3年目として、芸術文化ゾーンにおいて、あきた芸術劇場および秋田市文化創造館といった文化創造の拠点となる施設の整備が進んでいるほか、まち歩きイベントの実施などによる県民・市民の機運醸成を図る取組が進められているところである。秋田駅周辺ではアリーナや学生向けマンションが完成し、秋田版CCRCマンションの建設が進むなど、交流人口の増加とにぎわい創出の核となる施設の整備が進んでいる。
- ・ これらの各種事業の進展もあって、秋田駅西口の商業地における公示地価が2年連続で上昇するなど、活性化に向けた取組の効果が徐々に現れてきていると評価している。
- ・ 中心市街地の人口について、計画の開始前年度にあたる平成28年度から減少している状況にある。
- ・ 内閣府が作成したフォローアップ実施マニュアルでは、報告書に記載しなければならない項目が定められており、この部分には、中心市街地活性化協議会として、昨年度の中心市街地の状況や基本計画に掲載された取組の進捗状況等についてどう考えているかという意見を記載する事となっている。本日はこの部分に記載のご意見をいただきたく、協議会からの意見については、この説明の後、協議会事務局からご説明することとなっている。
- ・ 「Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果の1, 目標達成の見通しと、2, 目標達成見通しの理由」について、中心市街地活性化基本計画では、5つの目標指標を設定し、活性化に向けた取組を進めている。
- ・ 1つ目の目標指標である歩行者自転車通行量について、令和元年度は30,664人となり、基準である平成28年度の値を下回る結果となった。これは、平成30年5月末をもって秋

田県民会館およびジョイナスが閉館した影響を受けたものと考えている。一方、直近2年間で見ると漸増傾向にあり、各種事業の効果が現れ、回遊性が向上しているものと考えられる。

- ・ 芸術文化施設利用者数について、対象施設は県民会館、県立美術館、市立千秋美術館、佐竹史料館の4施設としており、あきた芸術劇場開館後は、県民会館に代わりあきた芸術劇場の利用者数を加えるとしている。基準値である平成27年度が1日あたり966人であったのに対し、令和元年度は476人となり、目標値から大きく減少してしまっただが、秋田県民会館の閉館による影響であり、他の文化施設については概ね基準値程度の利用状況となっているため、今後あきた芸術劇場の開館により目標は達成可能であると考えている。
- ・ 中心市街地における人口の社会増加数について、目標値は計画期間中の5年間で、中心市街地における人口の社会増加数の累計が240人に達すると設定している。最新値-56人の内訳について、平成29年度が+4人、30年度が-19人、元年度が-41人となっている。秋田市に限らず全国的に人口の減少が続いており、中心市街地においてもその流れがマイナスの要因となっている。基本計画に掲載されている駅東口の学生マンションが完成し、CCRC事業が順調に進捗していることから、これら施設への入居が始まれば、目標達成は可能であると見込んでいる。
- ・ 商業集積促進関連制度利用件数について、創業・起業などのための支援制度の利用件数を計画期間中の5カ年の累計で評価しようとするものであり、対象としている制度のうち、空き店舗を利用した新規出店等に対する支援策である「中心市街地商業集積促進補助制度」については、中心市街地活性化基本計画の認定に併せて制度を拡充し、より使いやすい制度となったことから、当初の想定を大きく上回って利用件数が伸びており、すでに目標値を超える結果となっている。
- ・ 市民活動等施設利用件数について、にぎわい交流館やアルヴェなどの貸し会議室等の利用件数となる。利用件数は対前年比で減少となっているが、年度の終わりにかけて、新型コロナウイルス感染症による影響で施設利用者数が減少したものの。この状況が収束し、秋田市文化創造館を拠点とした文化創造プロジェクトが始動することで、市民活動の創出や交流人口の増加が図られていくものと考えている。
- ・ 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由について、記述のとおり前回からの変更はない。
- ・ 5頁から16頁までは、4. 目標指標ごとのフォローアップ結果として、調査結果の推移、目標達成に寄与する主要事業の進捗状況および事業効果、目標達成の見通し及び今後の対策などを具体的に記載している部分となるが、ここでの説明は割愛させていただく。
- ・ 今後のスケジュールについて、本日いただいた意見を報告書に記載して、内閣府に対しフォローアップ報告書案を提出する。その後、内閣府にて報告書の内容確認を行い、必要に応じて修正等を行うことになる。その後、内閣府で全国のフォローアップ報告書を取りまとめ、6月の末ころを目処に本市のホームページ上で公表する予定。

続いて、事務局より、フォローアップに対する意見について以下のとおり説明した。

- ・ 秋田市より令和2年5月22日付けで、令和元年度における中心市街地活性化に向けた取組等に対する意見聴取について依頼を受け、回答期限は本日6月3日までとなっている。意見書案について、ご審議いただきたい。

協議資料の意見書（案）を読み上げ、原案どおり承認された。

（３）その他

秋田市都市整備部の根田部長が以下のとおり発言した。

- ・ 市民から、「あきた芸術劇場やCCRCなど一つ一つのパーズ図はあるが、秋田駅周辺から中心市街地全体について、5～6年後どういった街並みとなるかイメージが湧きにくい」といった意見がある。
- ・ ここで提案だが、秋田駅東側から中心市街地について全体の構想をまとめた鳥瞰図のようなものを作成いただきたい。

この発言について、三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 前回の協議会で触れたが、中心市街地の整備を進めていくうえで、よりどころとなるグランドデザインが必要と考えている。

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ 今年、秋田市総合計画が始まる。その中で中央街区が果たすべき役割等を踏み込んでやるものであればいい。市民がイメージしやすいという観点も重要だが、基礎となる部分も十分考慮されるべき。中心市街地のあるべき姿などある程度のガイドラインを落とし込む、そのための議論がされることを望む。

この発言について、三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 非常に難しい面もあると思うが、一つのたたき台となるよう、次回協議会への提案に向けて事業概要の検討、予算の調整等を事務局で進めてほしい。

【報 告】

（１）①あきた芸術劇場および秋田市文化創造館の進捗について

秋田市企画財政部の齋藤副理事兼企画調整課長が以下のとおり報告した

- ・ あきた芸術劇場の整備事業について、4月末現在の工事の進捗率は予定の10.3%に対し約10%と比較的順調に進んでいる。今後の予定について、指定管理候補者は4月24日に県市で選定委員会を開き、候補者を選定している。6月の県議会、市議会において、同じ指定管理者を指定議決の案件として提出する予定。議決後は開館準備の委託事業に入っていく。工事は2021年12月完了を予定しており、2022年3月に開館予定。
- ・ 秋田市文化創造館について、先の議会で設置条例を議決済み。一度工期を延長しているが、4月末現在の工事の進捗率は予定の49%に対し48.4%となっている。指定管理者について、指定管理候補者選定委員会を開き、あきた芸術劇場同様に6月の市議会に指定議決の案件として提出予定。議決後は、7月から基本協定を締結し、開館準備の業務委託に入りたいと考えている。今年11月末に改修工事を完了し、来年3月末に開館予定。
- ・ オープニング事業について、アーツセンターあきたと計画を進めている。今後、進捗があれば本協議会で報告したい。

（１）②秋田市中通CCRC拠点整備事業について

㈱北都銀行地方創生室の赤坂シニアマネージャーが以下のとおり報告した。

- ・ コロナウイルス感染症の影響は特になく、順調に工事が進んでいる。来週から内装工事に着工予定。

- ・ 1階から4階について、当初の予定通り金融機関や医療・介護、飲食、美容関連業者等のテナント入居が決まっている。ソフト面の充実について、仲小路振興会をはじめとした周辺商店街との連携による賑わい創出などに努めていきたい。
- ・ 今後について、8月にマンションの説明会開催、9月末に完成引渡し、施設のオープンは10月5日を皮切りにその後五月雨式に11月に内科クリニックオープン、2021年春に歯科・美容整形クリニックおよびエステサロン等のオープンを予定している。その間、2020年12月には分譲マンションの入居開始を予定している。
- ・ 入居調整中・未定の案件について、2階のレストランはある程度入居意向を確認できているが、4階の24坪部分と10坪の入居未定部分について、クリニックやマッサージ関連業者の入居を望んでいるので、是非ご紹介いただきたい。

【意見・質問】

秋田大学の篠原教授が以下のとおり発言した。

- ・ いろいろな施設ができてても利用者がいないといけないと思う。現状把握など詳細調査を市や会議所に追加でお願いするのは難しいと考えているので、秋田県立大学や秋田大学に提案いただきたい。本学の教育文化学部の中の半分は学生は街おこしに興味がある。卒論のために、幾つかの団体宛てに地域おこしや地域振興観点の研究課題で、学生たちの派遣を提案している。研究課題なので無料で実施できる。通行量調査についても、単なる人数カウントだけでなく、性別や家族構成なども付帯調査としてできると思うので、大学を利用いただきたい。

【その他】

三浦会長が、「前回の協議会で藤井委員から質問があった西口の建設計画について、事務局よりご報告させていただく」と発言し、事務局から、「東横インの秋田駅西口ビルの新築計画およびメトロポリタン秋田の増築計画について」説明した。

閉 会